

# News Release



本資料は2010年7月29日にBASF本社(ドイツ)で開催された第2四半期決算説明会報道資料の和訳です。

2010年8月9日

## BASF、第2四半期の業績を発表:利益が飛躍的に上昇

お問い合わせ:  
BASF ジャパン株式会社  
クロス 雅子/大倉 真紀  
TEL: 03-3796-4864 / 4865  
FAX: 03-3796-4111  
masako.cross@basf.com  
maki.okura@basf.com

- 2010年第2四半期:前年同期比で売上高 30%増、特別項目控除前 EBIT94%増
- 2010年上半期:前年同期比で売上高 28%増、特別項目控除前 EBIT96%増
- ポートフォリオの最適化が奏功
- すべての地域で成長の兆し — 化学品事業が過去最高水準に
- 2010年の見通し:
  - 下半期も引き続き、景気回復はゆるやかなペースで持続
  - 特別項目控除前 EBIT が大幅に増加
  - 資本コストを上回る利益達成の見込み
  - 2010年の配当は前年を上回る見込み

ビジネス環境が改善する中、BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は、利益を飛躍的に向上させました。最近行われたポートフォリオの最適化が成果を上げており、化学品事業の強みである高収益力は大幅に改善しました。BASFは引き続き、自社のビジネスをさらに理想的な状態に形成していくとともに、さらなる成長に向け基礎を固めています。

2010年第2四半期および上半期のBASF業績発表の場で、同社取締役会会長のユルゲン・ハンブレヒトは次のように述べています。「当社の戦略は明確です。

BASF ジャパン株式会社  
コーポレート・コミュニケーションズ  
住所: 〒106-6121  
東京都区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー21階  
TEL: 03-3796-4864  
FAX: 03-3796-4111  
<http://www.japan.basf.com>

当社が注力するのは、お客様にとってより身近なビジネスと成長市場です。当社の実績は資本市場からも認められています。BASFの株価は2010年上半期中7.8%増加し、「DAX 30」、「DJ EURO STOXX 50」、および化学業界のすべてのインデックスを上回りました」。

BASFは、2010年第1四半期の業績上昇を受け、第2四半期にも勢いを得ています。売上高は前年同期比30%増の162億ユーロとなりました。第2四半期の特別項目控除前EBITは、94%増の22億ユーロとなりました。

上半期の売上高は28%増の317億ユーロ、特別項目控除前EBITは96%増の42億ユーロでした。売上高と特別項目控除前EBITはともに、2010年第1四半期の良好な水準を上回りました。主な理由としては、化学品部門、プラスチック部門、機能性化学品部門、高機能製品部門の事業で極めて高い需要が見られたことが挙げられます。これらは、バリューチェーンにおける在庫補充の動きによって拡大しました。

## 2010年通年の見通し

通年の見通しは、世界経済に関する以下の予想に基づきます。

- ・ GDP成長率:3~4%
- ・ 工業生産高成長率:7~8%
- ・ 化学品生産高成長率(医薬品を除く):7~8%
- ・ ユーロ/ドルの平均為替レート:1ユーロあたり1.30ドル
- ・ 年間平均原油価格:1バレルあたり75ドル

ハンプレヒトは、次のように述べています。「BASFの売上高は、2010年も拡大し、世界の化学品生産の成長率を上回る見込みです。特別項目控除前EBITは大幅に増加し、資本コストを上回る利益を再び達成できると予測しています。

2010年の配当は、配当方針に基づき増加する見込みです」。

BASF ジャパン株式会社  
コーポレート・コミュニケーションズ  
住所: 〒106-6121  
東京都区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー21階  
TEL: 03-3796-4864  
FAX: 03-3796-4111  
<http://www.japan.basf.com>

ハンプレヒトは、2010 年下半期の景気回復は引き続きゆるやかなペースであると予想しています。世界中で各国政府予算の調整が求められることや、国家的な景気刺激策の縮小により、需要の抑制が考えられます。その他のリスクは主に、不安定な原材料市場、余剰生産能力、地政学的緊張の拡大、保護貿易主義に関連するものです。

## すべての部門が増益に貢献

高需要に支えられ、「化学品部門」の売上高は、経済危機の影響で低調に終わった 2009 年第 2 四半期との比較で 64%増となりました。特別項目控除前 EBIT は、前年同期から 4 億 2,900 万ユーロ増加しました(166%増)。南京のフェアブント拠点が定期保守整備により停止し、マイナスの影響があったにも関わらず、2010 年第 1 四半期比で利益は増加しました。

「プラスチック部門」の売上高は、前年の低調な水準との比較で 48%増加しました。設備稼働率が良好であったことに加え、事業再編策によるプラスの効果もまた、特別項目控除前 EBIT に反映されました。特別項目控除前 EBIT は、2 億 1,100 万ユーロ以上増加しました(153%増)。定期保守整備のための操業停止と、ポリアミド 6,6 の供給不足にも関わらず、第 1 四半期比で利益水準は上昇しました。

販売量と販売価格の高騰により、「高性能製品部門」の第 2 四半期の売上高は、前年同期比で 29%と大幅な増加を達成しました。重要な中間体の供給が限られたことにより、一部の製品提供にボトルネックが見られました。特別項目控除前 EBIT は、3 億 9,100 万ユーロ増加しました(489%増)。この増収は、チバの統合によるシナジー効果、当社のビジネスモデルの導入、良好なビジネス環境によるものです。すべての事業本部は、特別項目控除前 EBIT にプラスの貢献を果たしました。

自動車業界での需要拡大などを理由に、「機能性化学品部門」の第 2 四半期の売上高は、すべての地域で著しく増加し、前年同期比 40%増となりました。特別項目控除前 EBIT は、前年同期比 1 億 1,700 万ユーロ増でした(244%増)。ビジネス環境の改善に加え、事業再編措置の成功も業績に寄与しました。

「農業関連製品部門」の第 2 四半期の売上高は、前年同期比 3%増となりました。これは、為替レートが好条件であったことと、南米およびアジアで販売量が増加したことによります。特別項目控除前 EBIT は、過去最高だった前年を下回り、4,700 万ユーロでした(13%減)。これは、販売価格の低下と販売費および研究開発費が一部で上昇したことによります。

「石油・ガス部門」の第 2 四半期の売上高は前年同期比 3%減となりました。特別項目控除前 EBIT は、天然ガス取引事業の販売量の増加により、900 万ユーロ増加しました(2%増)。探索・生産事業の売上高は、リビアでの OPEC の生産制限などを理由に減少しました。

「その他」に分類される事業の第 2 四半期の売上高は、32%と大幅に増加しました。これは主に、スチレン事業の販売価格の高騰によります。スチレン事業の利益は増加しました。第 2 四半期、BASF 株式が「MSCI World Chemicals」のベンチマーク指標を大幅に上回ったことから、BASF のストックオプション・プログラムに関わる引当金が発生し、利益は減少しました。

## **全地域で増収増益を達成**

「欧州地域」の当上半期売上高は、前年同期(2009 年上半期)比 16%増でした。特別項目控除前 EBIT は、11 億 4,000 万ユーロ増の 26 億 3,000 万ユーロでした(76%増)。化学品事業の需要増により、低迷した 2009 年上半期との比較では大幅な増収増益を達成しました。石油・ガス部門では、天然ガスの販売価格の下落により、売上高・利益とも、2009 年上半期の水準には到達しませんでした。

BASF ジャパン株式会社  
コーポレート・コミュニケーションズ  
住所: 〒106-6121  
東京都区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー21 階  
TEL: 03-3796-4864  
FAX: 03-3796-4111  
<http://www.japan.basf.com>

「北米地域」の当上半期売上高は、米ドル建てで42%増、ユーロ建てで44%増となりました。利益は5億3,000万ユーロ増の7億9,200万ユーロでした(202%増)。販売量の増加により、化学品事業は大幅な増収増益を達成しました。農業関連製品部門の売上高と利益は、2009年上半期の非常に良好な水準を下回りました。これは、流通業者側の在庫増加による、殺菌剤事業の販売量の低下などによるものです。

「アジア太平洋地域」の当上半期売上高は、現地通貨建てで55%、ユーロ建てで60%増となりました。南京拠点の定期保守整備による停止にも関わらず、利益は3億5,700万ユーロ増の6億300万ユーロでした(145%増)。ダイナミックな景気回復は、化学品事業にとりわけプラスの影響を及ぼしました。農業関連製品部門では、前年同期比で増収増益を達成しました。

「南米、アフリカ、中東地域」の当上半期売上高は、現地通貨建てで21%、ユーロ建てで33%増でした。南米での農業関連製品部門のビジネスは、この増収に大きく寄与しました。この地域の当上半期利益は、前年同期比で6%増加しました。

## ■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標榜する世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ラインは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASFは信頼に応えるパートナー企業として、化学を通じあらゆる産業のお客様のさらなる成功を支援しています。また、高付加価値製品と高度なソリューションの提供により、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、交通・運搬環境の改善といった世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2009年の売上は500億ユーロを上回り、従業員数は約10万5,000人です。BASFの詳細な情報は、[www.basf.com](http://www.basf.com)(英語)、[www.japan.basf.com](http://www.japan.basf.com)(日本語)をご覧ください。

BASF ジャパン株式会社  
コーポレート・コミュニケーションズ  
住所: 〒106-6121  
東京都区六本木 6-10-1  
六本木ヒルズ森タワー21階  
TEL: 03-3796-4864  
FAX: 03-3796-4111  
<http://www.japan.basf.com>